

日本航空株式会社
2025年3月期 第3四半期
決算説明会



JAPAN AIRLINES



2025年2月4日
代表取締役副社長執行役員グループCFO 齋藤祐二
執行役員 弓崎雅夫

©Japan Airlines, ALL rights reserved.



APEX WORLD CLASS
by IATA
2025
APEX
WORLD CLASS



Best Wi-Fi in Eastern
Asia 2025 APEX"



SKYTRAX
2024年度
World's Best
Premium Economy Class



SKYTRAX
World Airline Star
Rating
5-Star



2024年度(第42回)IT賞
(オープンイノベーション領域)



SX銘柄2024



DX銘柄2024
Digital Transformation

1. 2025年3月期 第3四半期 業績概要
2. 2025年3月期 第3四半期 業績詳細
3. 参考資料



2024
健康経営銘柄
Health and Productivity



SPORTS
YELL
COMPANY
2024



2024
健康経営優良法人
Health and productivity
ホワイト500

ESG社外評価



FTSE Blossom
Japan Index ※



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index



Dow Jones Sustainability
Asia Pacific Index 3年連続選定

2024 CONSTITUENT MSCI日本株 ※
女性活躍指数 (WIN)



気候変動「A-」評価
(2023年度)



当社によるMSCIインデックスへの組み入れや、MSCIのロゴ、商標、サービスマークやインデックス名称の使用は、MSCI又はその関係会社による当社の後援、宣伝、販売促進を目的としていません。MSCIのサービスおよびデータはMSCIの独占的財産で、MSCI及びMSCIインデックスの名称とロゴは、MSCI又はその関係会社の商標又はサービスマークです。

注.(1) 当資料における表中の値は、金額は億円未満を切り捨て、比率は小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(2) Q3(10月-12月)の実績はQ3累計実績(4月-12月)からQ2累計実績(4月-9月)を差し引いて算出しております。

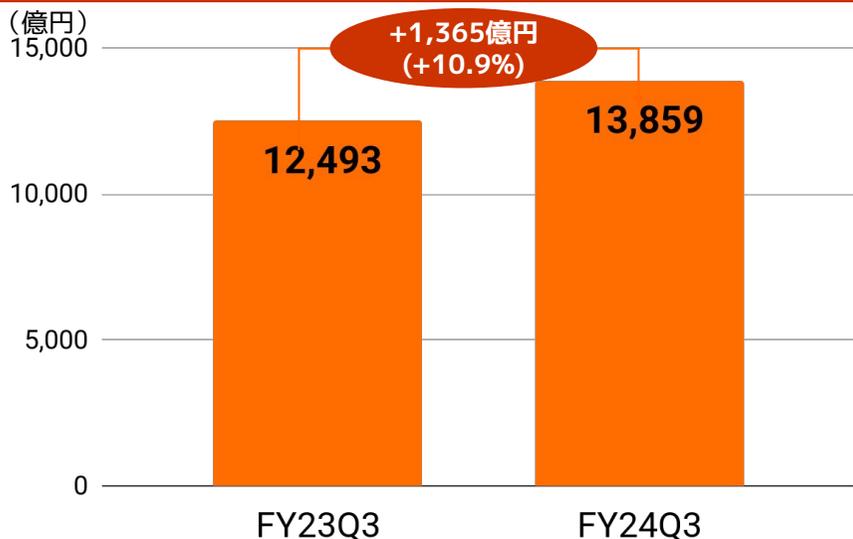
(3) LCC=Low Cost Carrier (4) ※= 役員報酬算定にESG銘柄選定評価を導入しており、対象とする銘柄のうち当社が選定されているもの

2025年3月期 第3四半期 連結業績概要

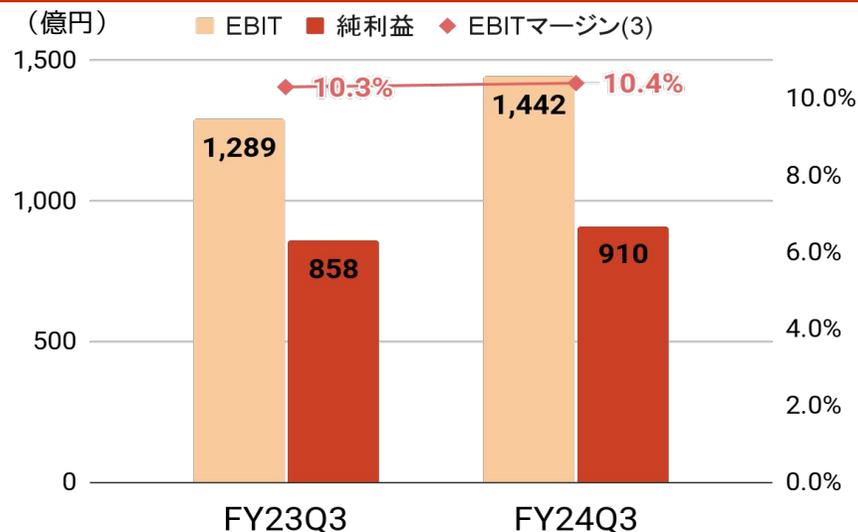


- ✓ 好調な国際旅客需要の確保、需要喚起施策による国内旅客取り込み、事業構造改革の進展により、対前年で増収増益、EBITは計画を達成
- ✓ 通期の連結業績予想および配当金予想額に変更無し

売上収益



EBIT⁽¹⁾/純利益⁽²⁾



燃油・為替市況実績

	FY23Q3	FY24Q3	前年同期比
シンガポール・ケロシン (USD/bbl)	103.6	94.4	▲8.9%
ドバイ原油 (USD/bbl)	82.8	80.3	▲3.0%
為替 (円/USD)	142.2	152.6	+7.3%

運航諸元/ASK

	FY24Q3 (前年同期比)		
	国際線	国内線	合計
フルサービスキャリア	+5.3%	▲0.3%	+2.9%
LCC	+27.0%	▲31.7%	+23.3%
合計	+8.5%	▲0.8%	+4.9%

(1) EBIT=財務・法人所得税前利益 (税引前利益から利息等の財務収支を除いたもの) (2) 純利益=親会社の所有者に帰属する四半期利益 (3) EBITマージン=EBIT/売上収益

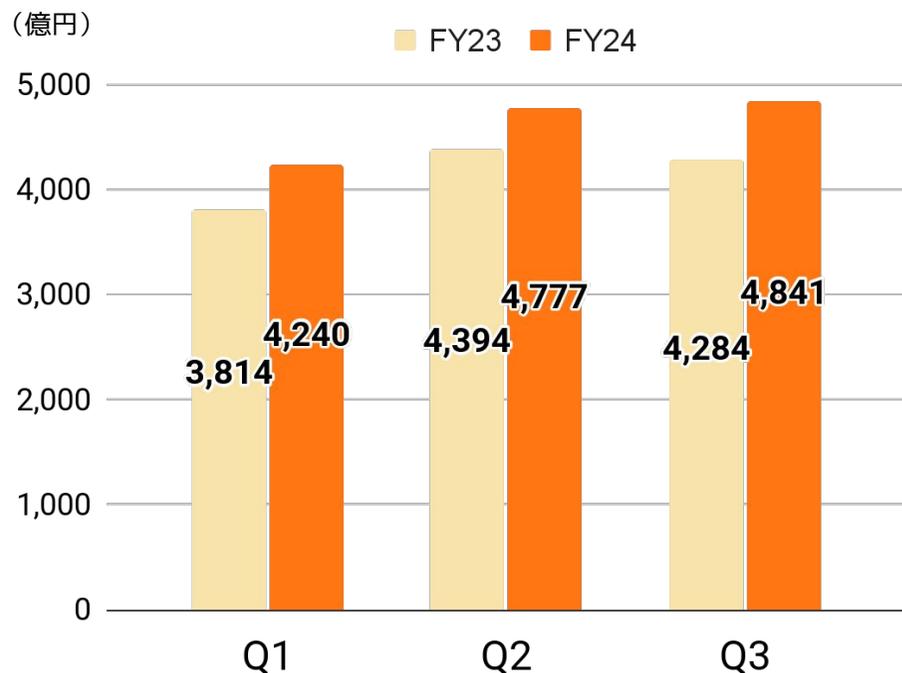
- 2025年3月期第3四半期累計の売上収益は、引き続き好調な国際旅客事業や需要喚起施策により伸長した国内旅客事業、また、事業構造改革の進展により前年より1,365億円増加し、1兆3,859億円となりました。
- EBITにつきましても、前年より152億円上回る1,442億円となりました。また、同じく純利益に关しましては前年より51億円上回る910億円となり、第3四半期累計での前年対比で増収増益となりました。
- EBITは計画通り進捗しております。また、当第3四半期累計の売上高につきましては、再上場後最高額となっております。
- 2025年3月期通期の連結業績予想および配当予想額に変更はございません。

各四半期の連結売上収益・EBIT推移

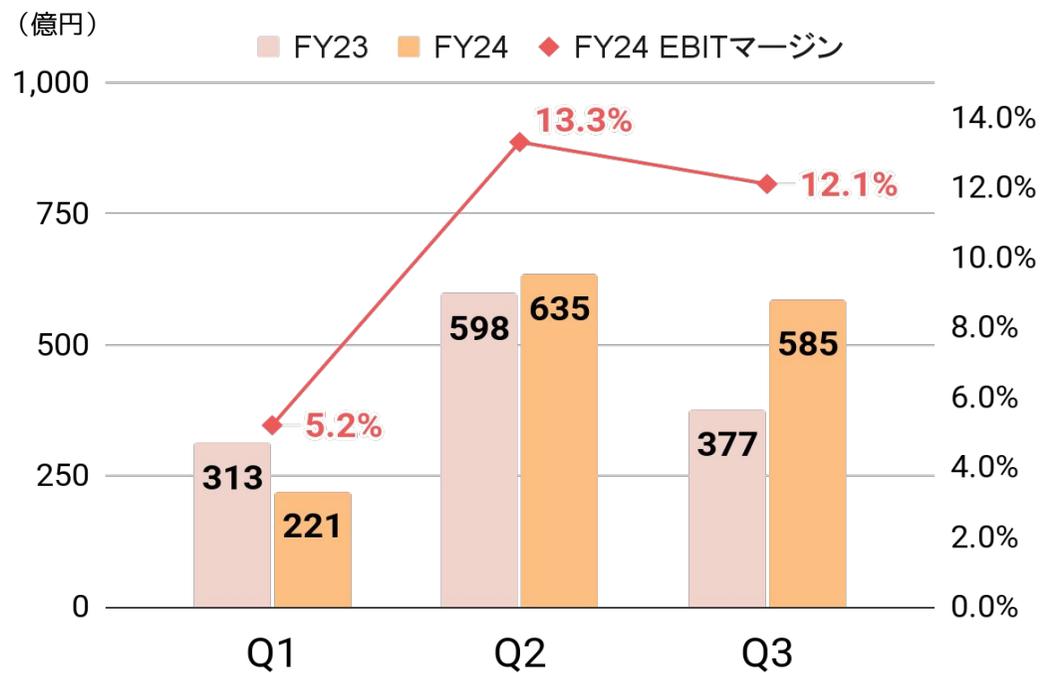


- ✓ 第3四半期単独でも対前年で増収増益、EBITは計画を達成
- ✓ 第3四半期単独の売上収益は再上場後の最高額、EBITも再上場後の最高益を達成
- ✓ 第3四半期単独のEBITマージンは12.1%と高水準を達成

売上収益



EBIT



- こちらのページでは、各四半期の連結売上収益並びにEBIT推移について説明します。
- 当第3四半期単独の売上収益は4,841億円となり、前年から556億円の増加となりました。また、同じく当第3四半期単独のEBITにつきましても585億円となり、前年から208億円増加し、第3四半期単独においても増収増益となりました。
- これらの当第3四半期単独の売上収益、EBITはともに再上場後の最高額となり、EBITマージンにつきましても、当第3四半期単独では12.1%となりました。

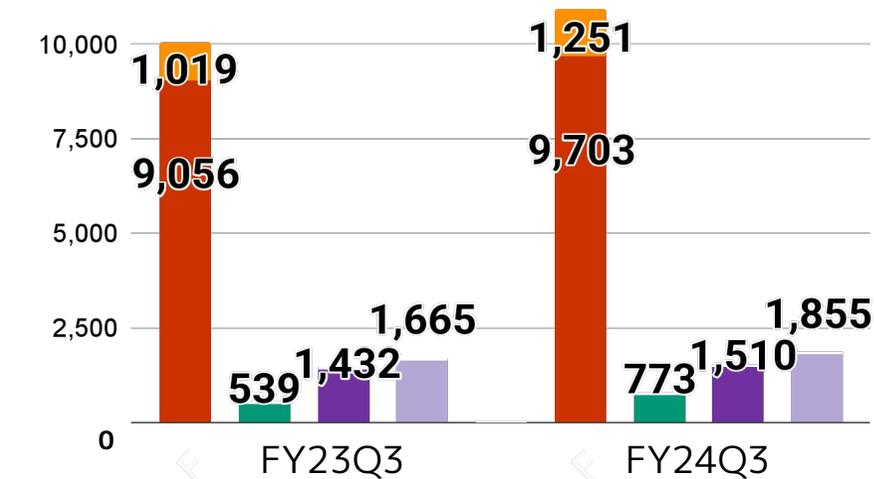
2025年3月期 第3四半期 セグメント別実績



- ✓ FSCは、好調な国際旅客・国内旅客の挽回・貨物機の活用で、対前年で売上収益が伸長
- ✓ LCCは、ZIPAIRが引き続き好調、SPRING JAPANも中国需要の回復によりEBITが伸長
- ✓ 事業構造改革の進展により、マイル/金融・コマー스는コマー스事業がけん引して対前年で増益
その他は受託事業がけん引して対前年で増益、FSC以外の利益が大きく伸びる

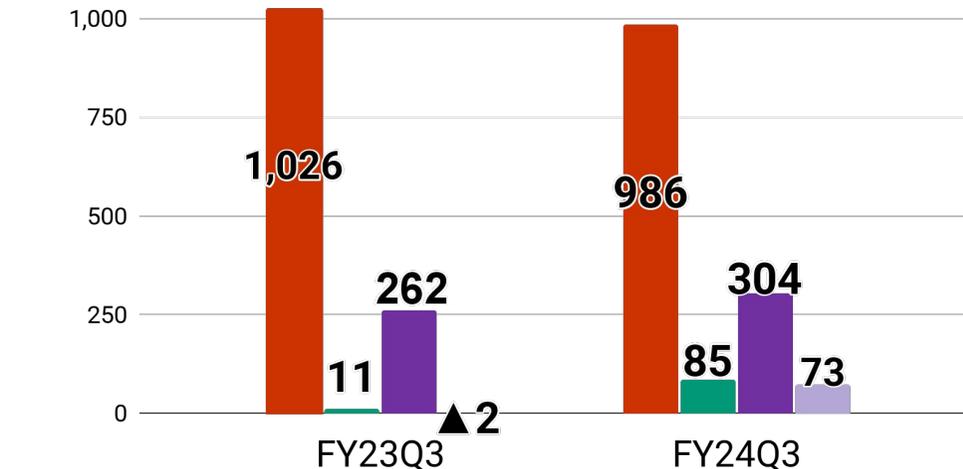
セグメント別 売上収益

■ FSC(貨物) ■ FSC(旅客) ■ LCC ■ マイル/金融・コマー스
■ その他(旅行・受託等)



セグメント別 EBIT

■ FSC(フルサービスキャリア) ■ LCC ■ マイル/金融・コマー스
■ その他(旅行・受託等)



(単位：億円) FY24Q3単独	FSC (フルサービスキャリア)		LCC	マイル/金融・コマー스	その他 (旅行・受託等)
売上収益	3,383 (旅客)	454 (貨物)	237	524	651
前年同期差	+298	+103	+52	+36	+95
EBIT	418		8	109	50
前年同期差	+122		+21	+9	+55

注. セグメント別実績における売上収益およびEBITはセグメント間連結消去前数値です。

- こちらのページでは、セグメント別の実績につきましてご説明します。
- 第3四半期累計のフルサービスキャリア事業につきましては、国際、国内旅客事業および貨物事業が好調に推移したことにより、売上収益が前年同期比で伸長しております。
- LCC事業につきましては、ZIPAIRが引き続き好調に推移するとともに、Spring Japanにつきましても中国需要の回復が見られたことにより、売上収益およびEBITが伸びました。
- マイル/金融・コマース事業につきましてもコマース事業が牽引することで、売上収益およびEBITが伸長しております。



1. 2025年3月期 第3四半期 業績概要
2. 2025年3月期 第3四半期 業績詳細
3. 参考資料



INTENTIONALLY LEFT BLANK

2025年3月期 第3四半期 連結業績詳細

科目別連結経営成績



(単位：億円)	累計				単独		
	FY23Q3	FY24Q3	前年同期差	前年同期比	FY24Q3	FY23Q3	
						同期差	同期比
売上収益	12,493	13,859	+1,365	+10.9%	4,841	+556	+13.0%
フルサービスキャリア	10,096	10,919	+822	+8.2%	3,817	+377	+11.0%
国際旅客収入	4,717	5,186	+469	+9.9%	1,781	+208	+13.2%
国内旅客収入	4,224	4,338	+114	+2.7%	1,533	+60	+4.1%
貨物郵便収入	1,019	1,251	+231	+22.8%	454	+103	+29.6%
その他収入	135	142	+7	+5.7%	47	+4	+10.9%
LCC旅客収入	482	654	+171	+35.6%	201	+34	+20.8%
マイル/金融・コマース、 その他（旅行・受託等）等 (1)	1,914	2,285	+370	+19.4%	822	+144	+21.4%
営業費用	11,296	12,537	+1,240	+11.0%	4,294	+364	+9.3%
燃油費	2,662	2,844	+182	+6.8%	920	▲41	▲4.3%
燃油費以外	8,634	9,693	+1,058	+12.3%	3,374	+406	+13.7%
その他収支 (2)	92	121	+28	+30.2%	39	+16	+69.6%
EBIT	1,289	1,442	+152	+11.9%	585	+208	+55.2%
EBITマージン(%)	10.3%	10.4%	+0.1pt	-	12.1%	+3.3pt	-
純利益	858	910	+51	+6.0%	411	+169	+70.1%
RPK(百万人キ口)	53,514	58,417	+4,902	+9.2%	20,272	+2,268	+12.6%
ASK(百万席キ口)	68,865	72,237	+3,372	+4.9%	24,150	+983	+4.2%
EBITDAマージン(%) (3)	19.1%	18.8%	▲0.4pt	-	20.2%	+2.8pt	-

連結業績詳細は、全社連結科目別に表したものであり、報告セグメント別の売上収益ではありません。

(1) マイル/金融・コマース、その他（旅行・受託等）等=マイル提携・コマース・旅行・受託事業収入等 (2) その他収支=航空機材売却益・その他の収入・持分法投資損益・投資収支

(3) EBITDAマージン=EBITDA/売上収益 EBITDA=EBIT+減価償却費

- 以降のページでは、2025年度3月期第3四半期の詳細について説明いたします。
- 7ページでは連結経営成績の数字をお示ししております。

2025年3月期 第3四半期 連結業績詳細

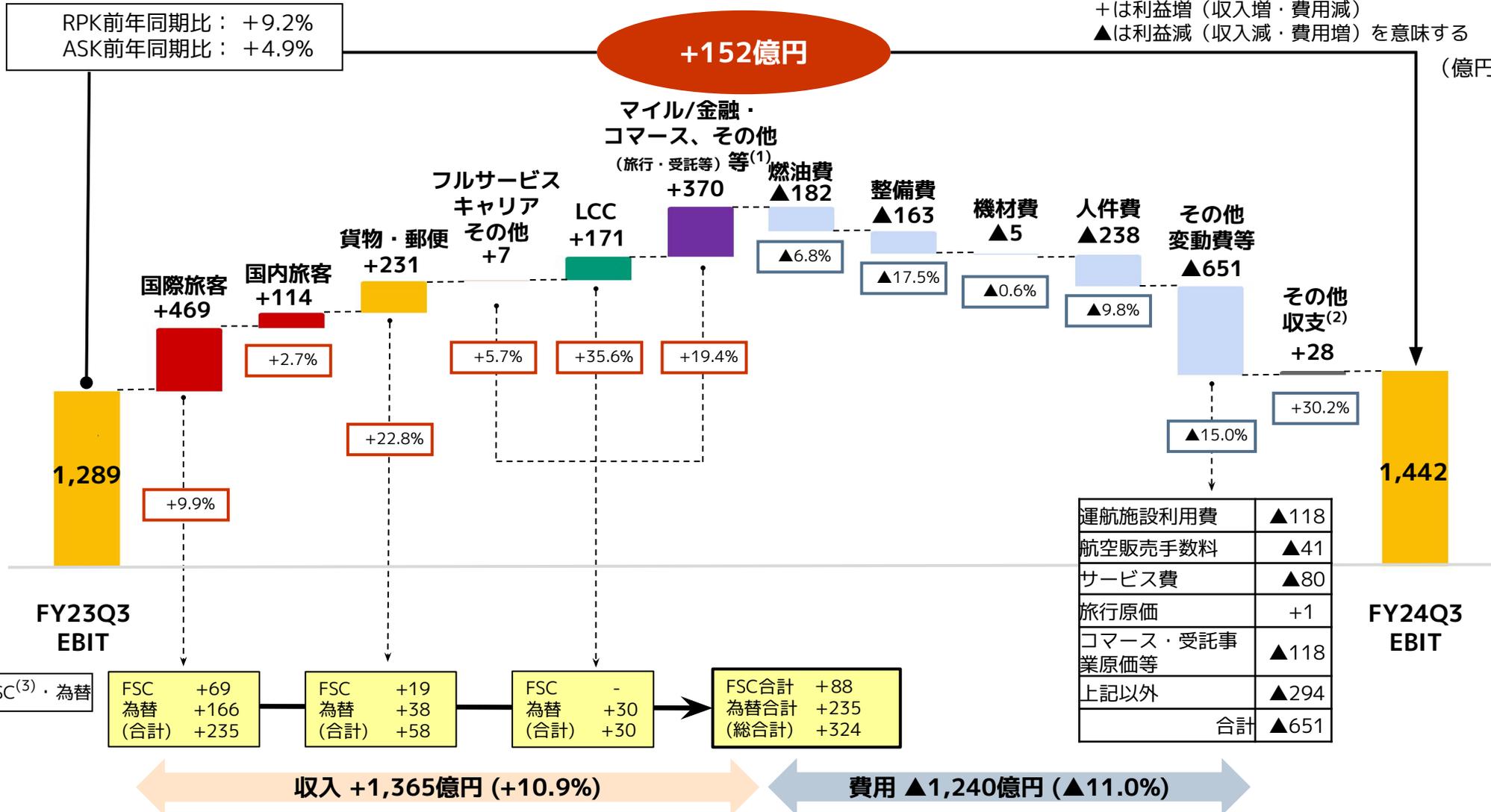
EBIT増減の科目別推移 (収入/費用)



RPK前年同期比: +9.2%
ASK前年同期比: +4.9%

+は利益増 (収入増・費用減)
▲は利益減 (収入減・費用増) を意味する
(億円)

+152億円



(1) マイル/金融・コマーシ、その他(旅行・受託等)等=マイル提携・コマーシ・旅行・受託事業収入等
(2) その他収支=航空機材売却益・その他の収入・持分法投資損益・投資収支 (3) FSC=Fuel Surcharge

- こちらのページでは、前年からのEBITの差の要因を収入と費用にわけてお示ししております。
- 収入につきましては、国際、国内旅客や貨物郵便、LCC、マイル/金融・コマース、その他など、各事業セグメントにおいて収入が伸びた結果、前年より1,365億円の増収となりました。
- 費用につきましては、主に為替市況の影響で燃油費や整備費といった項目が増加しております。また、人的投資として、人件費につきましても前年度から増加させております。
- 加えて、旅客数および供給増に伴って、運航規模や旅客数に連動する費用やその他各種費用の増加がみられており、費用としては前年より1,240億円増加しました。
- 以上の結果、EBITは前年より152億円増加となりました。

2025年3月期 第3四半期 連結業績詳細

EBIT増減の推移 (市況/その他)



(億円)

+は利益増 (収入増・費用減)
▲は利益減 (収入減・費用増) を意味する

+152億円

うち為替影響 ▲102億円
 収入 +235億円
 費用 ▲338億円
 燃油費 ▲187億円
 燃油費以外 ▲150億円

(市況要素を除く影響額)

増収 +1,041
 他の費用等 ▲1,083

1,442

1,289

燃油以外
為替 +84

燃油
(ヘッジ除き) +36

燃油
サーチャージ +88

ヘッジ
損益等 ▲14

FY23Q3
EBIT

FY24Q3
EBIT

収入	+235
燃油以外費用	▲150
合計	+84

為替	▲187
燃油市況	+223
合計	+36

国際旅客	+69
国際貨物	+19
合計	+88

国際旅客	+233
国内旅客	+114
貨物郵便	+173
フルサービスキャリアその他	+7
LCC	+147
マイル/金融・コマース、その他 (旅行・受託等)等	+365
合計	+1,041

燃油搭載量等	▲203
整備費	▲92
運航施設利用費	▲108
サービス費	▲66
旅行原価	+1
コマース・受託事業原価等	▲116
機材費	▲3
人件費	▲227
上記以外	▲265
計	▲1,083

市況影響 +195億円

その他 ▲42億円

- こちらのページでは、前年からのEBITの差の要因を市況影響とその他の要因に分けてお示しております。
- 当第3四半期の市況につきましては、シンガポールケロシンが前年から8.9%下落した一方、為替市況につきましては昨年の142.2円から152.60円への円安となりました。
- これらの市況影響は前年より195億円のEBIT押し上げ要因となりました。また、市況影響を除きますと、42億円のEBIT押し下げ要因となりましたが、この中には特殊要因が含まれており、実質的にはほぼ昨年と変わりません。
- 結果として、前年度から152億円のEBIT増加となっております。

2025年3月期 第3四半期 連結業績詳細

国際旅客（フルサービスキャリア）



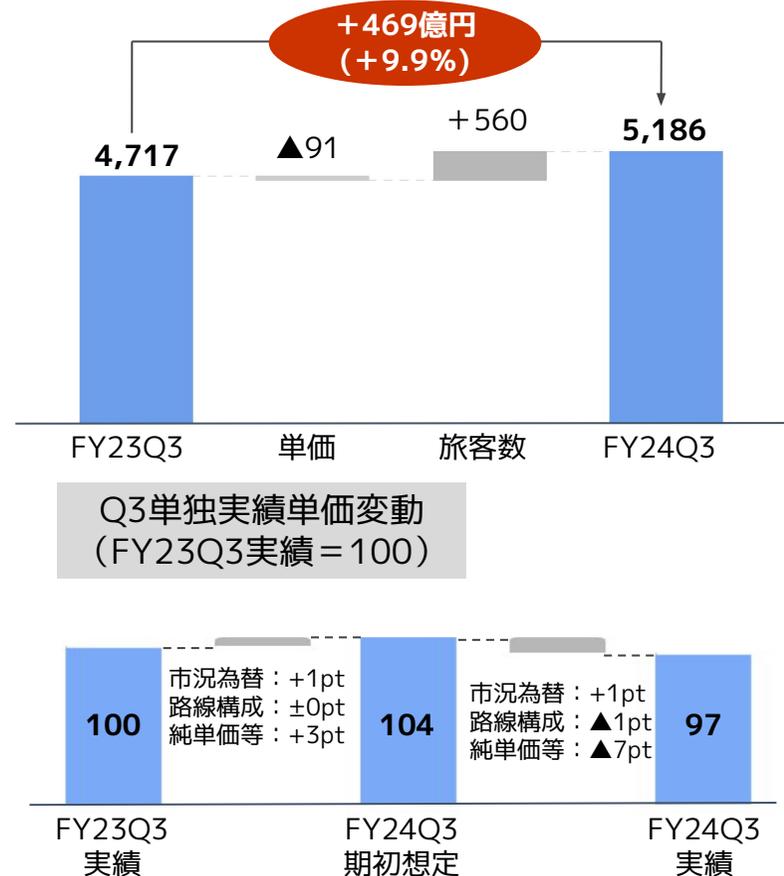
- ✓ 上期に続いて旺盛なインバウンドと緩やかに回復傾向にある日本発業務需要を取り込む
- ✓ 期末に向けて引き続き旺盛な海外発需要を取り込む

国際旅客事業の状況

国際旅客事業	累計			単独	
	FY23Q3	FY24Q3	前年同期比	FY24Q3	前年同期比
旅客収入（億円）	4,717	5,186	+9.9%	1,781	+13.2%
有償旅客数（千人）	4,954	5,557	+12.2%	1,936	+16.6%
RPK（百万人キ口）	28,124	30,999	+10.2%	10,716	+15.1%
ASK（百万席キ口）	35,574	37,447	+5.3%	12,717	+7.4%
有償座席利用率（%）	79.1%	82.8%	+3.7pt	84.3%	+5.6pt
単価（円）(1)	95,218	93,334	▲2.0%	92,032	▲2.9%
イールド（円）(2)	16.8	16.7	▲0.2%	16.6	▲1.6%
ユニットレベニュー（円）(3)	13.3	13.9	+4.4%	14.0	+5.4%

- (1) 単価 = 旅客収入 / 有償旅客数
 (2) イールド = 旅客収入 / RPK
 (3) ユニットレベニュー = 旅客収入 / ASK

国際旅客収入の推移（億円）



- このページではフルサービスキャリア国際旅客事業の実績をお示ししております。
- 国際旅客については、上期に引き続き、旺盛なインバウンド需要や回復傾向にある日本発需要を取り込んだ結果、第3四半期累計旅客数は前年から12.2%増加しました。これにより有償座席利用率は前年から3.7ポイント伸び、82.8%となりました。
- 単価は前年より若干下落したものの、以上の結果として国際旅客収入は前年より9.9%増加の5,186億円となりました。
- 期末にかけて引き続き旺盛な海外発をはじめとする需要を確実に取り込み、収入を伸ばしていきたいと考えております。

2025年3月期 第3四半期 連結業績詳細

国内旅客（フルサービスキャリア）



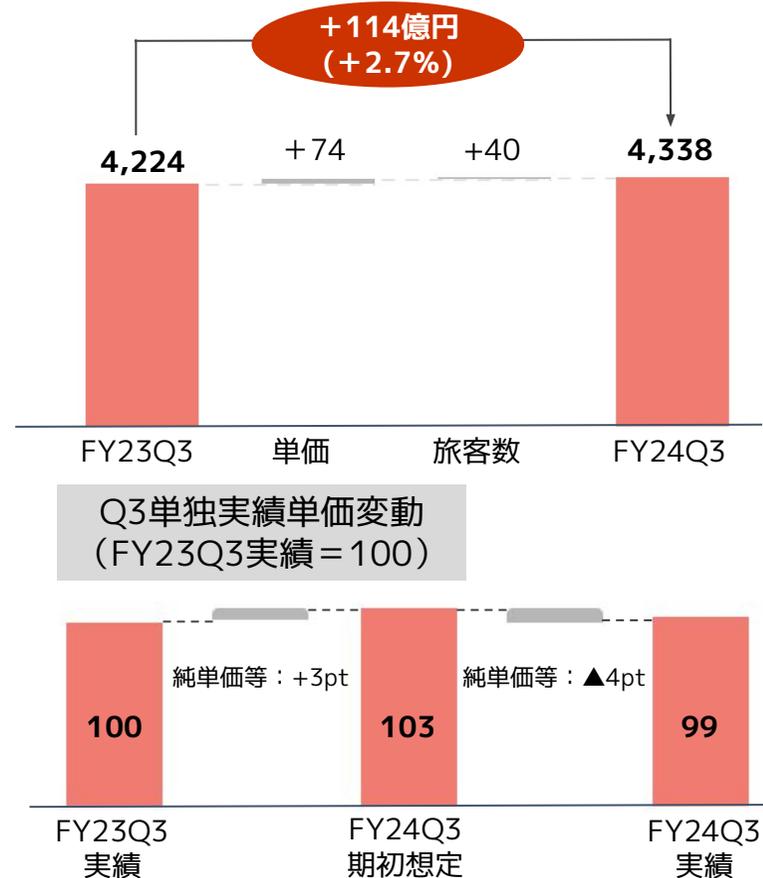
- ✓ 上期に続いて好調な個人旅客需要と低需要便の需要喚起策により団体旅客需要を取り込む
- ✓ 期末に向けて低需要便の需要喚起を継続し、需要の確実な取り込みを目指す

国内旅客事業の状況

国内旅客事業	累計			単独	
	FY23Q3	FY24Q3	前年同期比	FY24Q3	前年同期比
旅客収入（億円）	4,224	4,338	+2.7%	1,533	+4.1%
有償旅客数（千人）	26,644	26,897	+0.9%	9,611	+5.4%
RPK（百万人キ口）	20,208	20,552	+1.7%	7,330	+6.1%
ASK（百万席キ口）	26,565	26,497	▲0.3%	8,843	▲0.9%
有償座席利用率（%）	76.1%	77.6%	+1.5pt	82.9%	+5.5pt
単価（円）(1)	15,855	16,130	+1.7%	15,960	▲1.2%
イールド（円）(2)	20.9	21.1	+1.0%	20.9	▲1.9%
ユニットレベニュー（円）(3)	15.9	16.4	+3.0%	17.3	+5.1%

- (1) 単価=旅客収入/有償旅客数
 (2) イールド=旅客収入/RPK
 (3) ユニットレベニュー=旅客収入/ASK

国内旅客収入の推移（億円）



- このページではフルサービスキャリア国内旅客事業の実績をお示ししております。
- 国内旅客については、上期に続き個人旅客需要が好調に推移したことに加え、低需要便の需要喚起施策などによって需要を取り込みました。
- 第3四半期単独の旅客数につきましては前年より5.4%増加し、座席利用率が82.9%と高い水準で推移しました。イールドに関しては前年から1.9%減少となりましたが、第3四半期単独の国内旅客収入としては前年より4.1%増加しております。
- 結果として、第3四半期累計の国内旅客収入は前年から2.7%増加の4,338億円となりました。
- 期末に向けても確実に需要を取り込んでいくことで、収入の最大化を図ってまいります。

2025年3月期 第3四半期 連結業績詳細 貨物



- ✓ 国際貨物は、貨物機を活用し中国・アジア発北米向け貨物や医薬品等の高付加価値貨物の獲得を強化。欧米向けの単価向上と物量増加に努め増収
- ✓ 国内貨物は、需要が想定より伸び悩むも、新規の需要獲得などに努め増収

国際貨物事業	累計			単独	
	FY23Q3	FY24Q3	前年同期比	FY24Q3	前年同期比
貨物収入（億円）	766	944	+23.3%	339	+30.8 %
有効貨物トンキロ（百万）	3,162	3,952	+25.0%	1,319	+26.4 %
有償貨物トンキロ（百万）	1,901	2,105	+10.7%	723	+14.8 %
貨物輸送重量（千トン）	319	390	+22.1%	135	+26.2 %
重量単価（円/kg）	240	242	+1.0%	251	+3.6 %

国内貨物事業	累計			単独	
	FY23Q3	FY24Q3	前年同期比	FY24Q3	前年同期比
貨物収入（億円）	150	215	+43.5%	80	+53.5 %
有効貨物トンキロ（百万）	1,221	1,273	+4.2%	430	+4.7 %
有償貨物トンキロ（百万）	216	235	+8.5%	87	+14.3 %
貨物輸送重量（千トン）	230	252	+9.5%	95	+15.2 %
重量単価（円/kg）	65	85	+31.0%	85	+33.3 %

- こちらのページでは、貨物事業の業績をお示しております。
- 国際貨物は、貨物専用機を活用して需要が旺盛な中国やアジアからの北米向け貨物や医薬品などの高付加価値貨物獲得することで、輸送重量、重量単価、貨物収入ともに前年より伸ばすことができました。
- また、国内貨物に関しましても、前年対比増収となっております。

2025年3月期 第3四半期 連結業績詳細

LCC



- ✓ ZIPAIRは引き続き好調
- ✓ SPRING JAPANは前年対比で大きく収入を伸ばし、通期で黒字化を見込む

ZIPAIR 	累計			単独	
	FY23Q3	FY24Q3	前年同期比	FY24Q3	前年同期比
旅客収入（億円）	392	517	+31.9%	165	+16.6%
有償旅客数（千人）	830	1,018	+22.7%	338	+17.2%
RPK（百万人キロ）	4,576	5,817	+27.1%	1,895	+19.5%
ASK（百万席キロ）	5,838	6,947	+19.0%	2,125	+2.5%
有償座席利用率（%）	78.4%	83.7%	+5.3pt	89.2%	+12.7pt
単価（円）(1)	47,232	50,764	+7.5%	49,084	▲0.5%
イールド（円）(2)	8.6	8.9	+3.7%	8.8	▲2.5%
ユニットレベニュー（円）(3)	6.7	7.4	+10.8%	7.8	+13.7%

SPRING JAPAN 	累計			単独	
	FY23Q3	FY24Q3	前年同期比	FY24Q3	前年同期比
旅客収入（億円）	90	137	+51.7%	35	+45.8%
有償旅客数（千人）	582	738	+26.8%	200	+4.7%
RPK（百万人キロ）	604	1,048	+73.4%	330	+61.7%
ASK（百万席キロ）	886	1,344	+51.6%	463	+39.2%
有償座席利用率（%）	68.1%	78.0%	+9.8pt	71.2%	+9.9pt
単価（円）(1)	15,583	18,643	+19.6%	17,770	+39.2%
イールド（円）(2)	15.0	13.1	▲12.5%	10.8	▲9.8%
ユニットレベニュー（円）(3)	10.2	10.2	+0.1%	7.7	+4.7%

(1)単価=旅客収入/有償旅客数 (2)イールド=旅客収入/RPK (3)ユニットレベニュー=旅客収入/ASK

- このページでは、LCCの実績をお示ししております。
- ZIPAIRは、第2四半期に引き続き、前年度より旅客数、収入ともに大きく伸ばしており、順調に成長を続けております。
- また、スプリングジャパンにつきましても、中国発需要の回復などにより前年対比で大きく収入を伸ばすことができました。

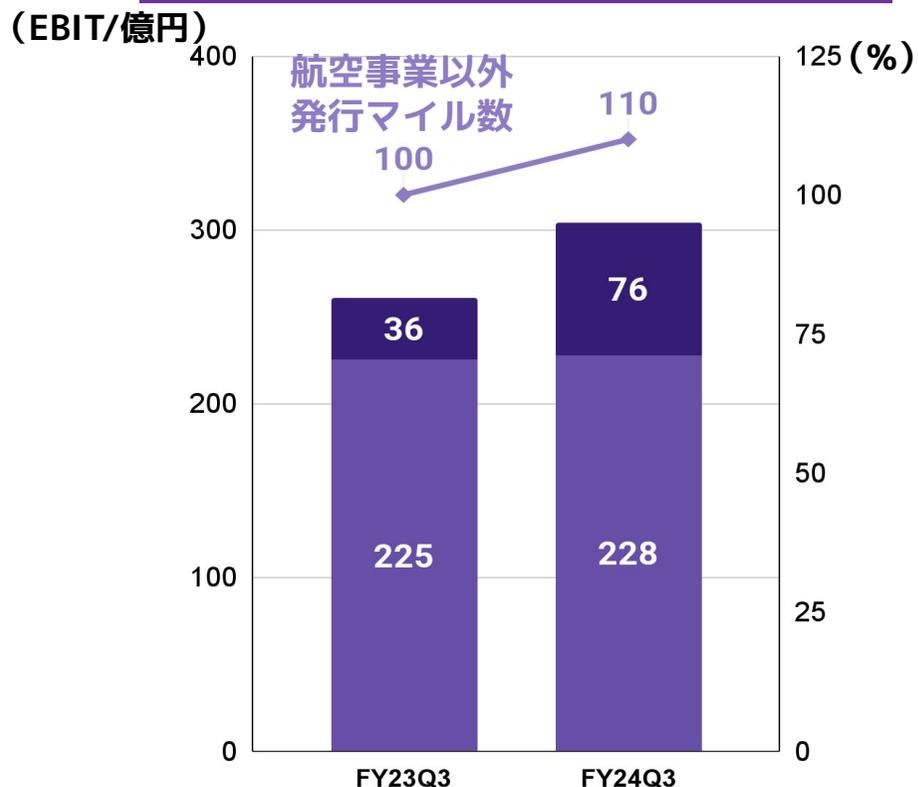
2025年3月期 第3四半期 連結業績詳細

マイル/金融・コマー্স、その他（旅行・受託等）



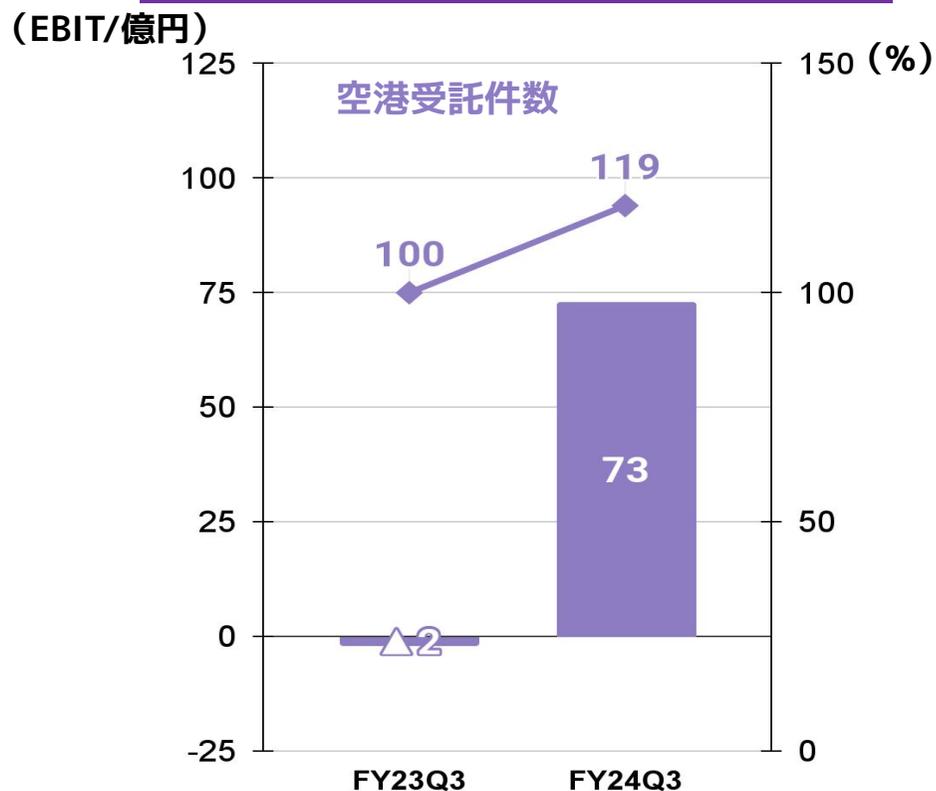
- ✓ マイル/金融・コマー্স事業では、JALUXの増収・マイル発行数の順調な伸張により、対前年増益
- ✓ その他（旅行・受託等）では、グランドハンドリング受託事業が引き続き好調

マイル/金融・コマー্স事業 EBIT およびマイル発行数の増減



◆ 航空事業以外での発行マイル数 (FY23Q3累計=100)
 ■ コマー্স 事業利益 ■ マイル/金融 事業利益

その他（旅行・受託等） EBIT および空港受託件数の増減



■ 利益 ◆ 受託件数 (FY23Q3累計=100)

- このページでは、マイル/金融・コマース、その他事業の実績をお示ししております。
- マイル/金融・コマース事業においてはJALUXの増収やマイル発行数が順調に伸びていることなどにより、前年より増益となっております。
- また、その他の事業につきましても、グランドハンドリング受託が堅調に推移し、増益となりました。

2025年3月期 第3四半期 連結業績詳細 費用詳細



主要営業費用項目

(単位：億円)	累計				単独		
	FY23Q3	FY24Q3	前年同期差	前年同期比	FY24Q3	FY23Q3	
						同期差	同期比
燃油費	2,662	2,844	+182	+6.8%	920	▲41	▲4.3%
運航施設利用費	535	653	+118	+22.1%	227	+44	+24.3%
整備費	930	1,094	+163	+17.5%	390	+63	+19.2%
航空販売手数料	184	226	+41	+22.6%	74	+14	+24.1%
サービス費(1)	342	423	+80	+23.5%	148	+27	+22.7%
他変動費(2)	1,600	1,815	+215	+13.4%	642	+83	+14.9%
機材費	910	915	+5	+0.6%	308	+13	+4.6%
人件費	2,437	2,675	+238	+9.8%	923	+64	+7.5%
その他の費用	1,693	1,889	+195	+11.6%	657	+94	+16.9%
営業費用合計	11,296	12,537	+1,240	+11.0%	4,294	+364	+9.3%

FSC (フルサービスキャリア) ユニットプロフィット

(単位：円)	累計			単独	
	FY23Q3	FY24Q3	前年同期差	FY24Q3	前年同期差
UR (ユニットレベニュー) (3)	14.4	14.9	+0.5	15.4	+0.7
UC (ユニットコスト) (4)	12.9	13.6	+0.7	13.6	+0.2
UP (ユニットプロフィット) (5)	1.5	1.3	▲0.2	1.8	+0.5

(1) サービス費=機内・ラウンジ・貨物などのサービスに関わる費用 (2) 他変動費=旅行・マイル提携・コマース・受託事業原価 など

(3) ユニットレベニュー= 旅客収入 ÷ ASK (4) ユニットコスト= (営業費用-旅客収入以外の収入) ÷ ASK (5) ユニットプロフィット=(ユニットレベニュー) - (ユニットコスト)

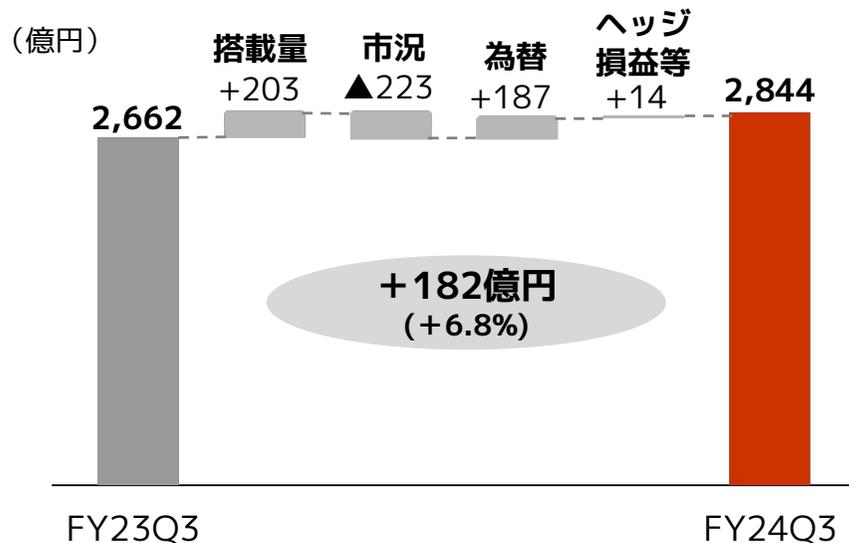
- このページでは、費用の詳細とユニットプロフィットについてご説明します。
- 円安の進行といった市況影響に加え、運航規模や旅客数に連動する費用や人件費をはじめとする各種費用が増加した結果、営業費用合計は前年より1,240億円増加し、1兆2,537億円となりました。
- ユニットプロフィットにつきましては、ユニットレベニュー、ユニットコストがともに上昇し、1.3となりました。

2025年3月期 第3四半期 連結業績詳細

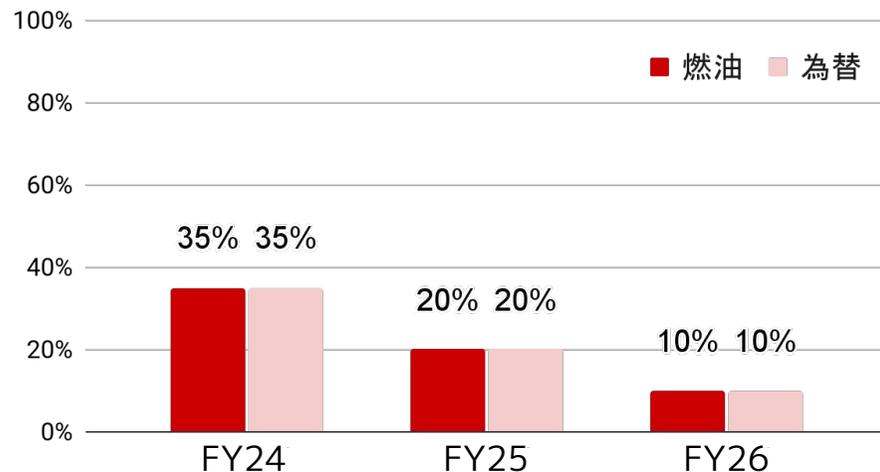
燃油費



燃油費増減の推移

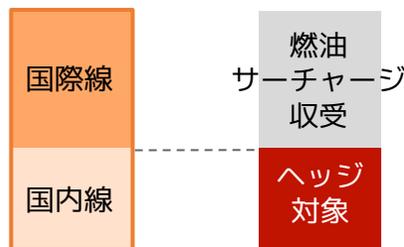


燃油費に対する年度別ヘッジ概況 (2024年12月末時点)



燃油ヘッジ

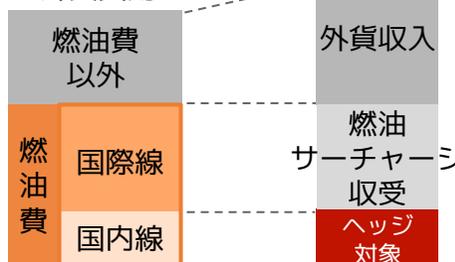
燃油使用量



- 国内線使用量を対象にヘッジを実施、燃油市況変動に対応
- 国際線使用量は燃油サーチャージ収受にて対応

為替ヘッジ

外貨費用



- 国内線使用量の燃油費を対象にヘッジ実施、燃油費における為替市況変動に対応
- 足許では海外発需要の高まりにより、外貨収入が燃油費を除く外貨費用を上回る

- このページでは、燃油費及びヘッジについてご説明します。
- 第3四半期累計の燃油費は前年から182億円増加の2,844億円でした。
- 右上のグラフは現在のヘッジの進捗状況をお示しております。また、下段にはご参考までに当社の燃油及び為替のヘッジ量の概念図をお示しております。

2025年3月期 第3四半期 連結業績詳細

財務状況・キャッシュフロー状況



BS ✓ 格付評価上の自己資本比率40.7%、ネットD/Eレシオ0倍と健全な水準を維持

CF ✓ 航空機投資が拡大する中でフリーキャッシュフローは黒字を維持

連結財政状態計算書	FY23期末	FY24Q3末	前期末差
総資産	26,492	27,607	+1,114
現金及び現金同等物	7,138	6,963	▲175
有利子負債	8,872	8,986	+113
1年内返済	1,069	979	▲89
自己資本(1)	9,099	9,483	+384
自己資本比率 (%) (2)(5)	34.3% (41.0%)	34.4% (40.7%)	+0.0pt (▲0.3pt)
D/Eレシオ (倍) (3)	1.0x	0.9x	▲0.0x
ネットD/Eレシオ (倍) (4)(5)	0.2x (▲0.0x)	0.2x (0.0x)	+0.0x (+0.0x)

(億円)

連結キャッシュフロー計算書	FY23Q3	FY24Q3	前年同期差
営業キャッシュフロー	2,732	2,516	▲216
減価償却費	1,100	1,159	+59
投資キャッシュフロー	▲1,557	▲2,221	▲664
投資・出資額	▲1,603	▲2,357	▲753
フリーキャッシュフロー (6)	1,175	294	▲881
財務キャッシュフロー	▲799	▲502	+296
キャッシュフロー合計 (7)	376	▲208	▲584
EBITDA (8)	2,390	2,602	+211

- (1) 自己資本=親会社の所有者に帰属する持分
- (2) 自己資本比率=親会社所有者帰属持分比率
- (3) D/Eレシオ=有利子負債/自己資本
- (4) ネットD/Eレシオ=(有利子負債-現金および現金同等物)/自己資本
- (5) ()内の数字は、ハイブリッド・ファイナンスを加味した格付評価上の数値
- (6) フリーキャッシュフロー=営業キャッシュフロー+投資キャッシュフロー
- (7) キャッシュフロー合計=営業キャッシュフロー+投資キャッシュフロー+財務キャッシュフロー
- (8) EBITDA=EBIT+減価償却費

- 最後に、バランスシートとキャッシュフローについてこのページで説明いたします。
- 2024年12月末の格付評価上の自己資本比率は40.7%、同じくネットDEレシオは0.0倍と、引き続き健全な水準を維持しております。
- また、12月末時点での手元現預金は6,963億円となりました。
- キャッシュフローですが、営業キャッシュフローは2,516億円のキャッシュインフローとなりました。また、前年より投資が拡大している中、フリーキャッシュフローも294億円の黒字となっております。
- 次ページ以降は参考資料です。



1. 2025年3月期 第3四半期 業績概要
2. 2025年3月期 第3四半期 業績詳細
3. **参考資料**



INTENTIONALLY LEFT BLANK

参考資料

国際線大路別実績（フルサービスキャリア）



旅客収入				
(単位:%)	累計		単独	
	FY24 Q3 構成比	FY23Q3比	FY24Q3 構成比	FY23Q3比
米大陸線	38%	+18.9%	37%	+23.1%
欧州線	18%	+13.4%	17%	+11.7%
アジア・オセアニア線	30%	+3.1%	33%	+7.0%
中国線	6%	▲6.3%	5%	+9.6%
ハワイ・グアム線	8%	+4.6%	8%	+5.2%
全路線	100%	+10.0%	100%	+13.2%

ASK				
(単位: 百万席キロ)	累計		単独	
	FY24Q3	FY23Q3比	FY24Q3	FY23Q3比
米大陸線	13,744	+2.4%	4,600	+2.7%
欧州線	6,061	+16.3%	1,984	+14.6%
アジア・オセアニア線	12,184	+1.5%	4,234	+8.8%
中国線	1,813	+8.7%	656	+19.7%
ハワイ・グアム線	3,642	+11.4%	1,241	+4.8%
全路線	37,447	+5.3%	12,717	+7.4%

RPK				
(単位: 百万人キロ)	累計		単独	
	FY24Q3	FY23Q3比	FY24Q3	FY23Q3比
米大陸線	11,634	+9.2%	3,842	+17.9%
欧州線	5,079	+21.8%	1,677	+21.0%
アジア・オセアニア線	10,038	+4.1%	3,744	+10.8%
中国線	1,327	+32.9%	433	+38.3%
ハワイ・グアム線	2,918	+9.7%	1,018	+5.2%
全路線	30,999	+10.2%	10,716	+15.1%

有償旅客数				
(単位:千人)	累計		単独	
	FY24Q3	FY23Q3比	FY24Q3	FY23Q3比
米大陸線	1,242	+8.6%	410	+17.6%
欧州線	552	+24.1%	182	+23.7%
アジア・オセアニア線	2,569	+6.6%	939	+11.9%
中国線	692	+35.2%	227	+41.6%
ハワイ・グアム線	500	+12.9%	175	+7.7%
全路線	5,557	+12.2%	1,936	+16.6%

有償座席利用率				
(単位:%)	累計		単独	
	FY24Q3	FY23Q3	FY24Q3	FY23Q3
米大陸線	84.6%	79.4%	83.5%	72.8%
欧州線	83.8%	80.0%	84.5%	80.1%
アジア・オセアニア線	82.4%	80.3%	88.4%	86.8%
中国線	73.2%	59.9%	66.0%	57.2%
ハワイ・グアム線	80.1%	81.3%	82.0%	81.7%
全路線	82.8%	79.1%	84.3%	78.6%

参考資料

航空機一覧



			前期末 2024/3/31			当期末 2024/12/31			増減
			所有	リース	合計	所有	リース	合計	
フルサービスキャリア	大型機	Airbus A350-1000	3	0	3	7	0	7	+4
		Airbus A350-900	11	4	15	11	4	15	0
		Boeing 777-300ER	13	0	13	12	0	12	▲1
		大型機 小計	27	4	31	30	4	34	+3
	中型機	Boeing 787-9	19	3	22	19	3	22	0
		Boeing 787-8	23	0	23	23	0	23	0
		Boeing 767-300ER	16	9	25	16	9	25	0
		中型機 小計	58	12	70	58	12	70	0
	小型機	Boeing 737-800	47	9	56	47	9	56	0
		小型機 小計	47	9	56	47	9	56	0
	リージョナル機	Embraer 170 / Embraer 190	32	0	32	32	0	32	0
		De Havilland DHC-8-400CC	5	0	5	5	0	5	0
		ATR42-600 / ATR72-600	14	1	15	14	1	15	0
		リージョナル機 小計	51	1	52	51	1	52	0
	貨物機	Airbus A321-200	0	2	2	0	3	3	+1
		Boeing 767-300ER	0	2	2	0	2	2	0
		貨物機 小計	0	4	4	0	5	5	+1
フルサービスキャリア 合計			183	30	213	186	31	217	+4
LCC	Boeing 787-8	8	0	8	8	0	8	0	
	Boeing 737-800	0	6	6	0	6	6	0	
	LCC合計	8	6	14	8	6	14	0	
総計			191	36	227	194	37	231	+4

参考資料

燃油・為替の市況変動によるQ4以降の利益影響 (ヘッジ、燃油サーチャージ等込み)



(億円)	燃油市況 (USD/bbl)	ドバイ 原油	60ドル	70ドル	80ドル	90ドル
		シンガポール・ ケロシン	80ドル	90ドル	100ドル	110ドル
為替 (円/USD)	140円		+110	+80	+50	+20
	145円		+95	+65	+35	予想前提 ±0
	150円		+90	+55	+20	▲15
	155円		+75	+40	+10	▲30
	160円		+70	+30	±0	▲40

※本表は、燃油市況（シンガポール・ケロシン）及び為替の変動により、燃油サーチャージ収入及び燃油費が増減することで、当社の今年度1～3月の間の利益がどのように変動するかを示しております。
なお、2025年3月までの燃油サーチャージテーブルは確定しており、これを反映済みです。

明日の空へ、日本の翼



JAPAN AIRLINES

当資料に関するお問い合わせ先

日本航空株式会社

財務・経理本部 財務部

本資料には、日本航空株式会社（以下「当社」といいます）及びそのグループ会社（以下当社とあわせて「当社グループ」といいます）に関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。これらは、当社が当該資料作成時点（又はそこに別途明記された時点）において入手した情報に基づく、当該時点における予測等を基礎として作成されています。これらの記述のためには、一定の前提・仮定を使用しています。これらの記述又は前提・仮定は当社経営陣の判断ないし主観的な予想を含むものであり、様々なリスク及び不確実性により、将来において不正確であることが判明し、あるいは将来において実現しないことがあります。したがって、当社グループの実際の業績、経営成績、財政状態等については、当社の予想と異なる結果となる可能性があります。かかるリスク及び不確実性には、日本その他の国・地域における経済社会状況、燃油費の高騰、日本円と米ドルその他外貨との為替レートの変動、テロ事件及び戦争、伝染病その他航空事業を取り巻く様々なリスクが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

本資料に掲載されている将来情報に関する記述は、上記のとおり当該資料の作成時点（又はそこに別途明記された時点）のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。

本資料に掲載されている情報は、情報提供を目的としたものであり、いかなる有価証券、金融商品又は取引についての募集、投資の勧誘や売買の推奨を目的としたものではありません。

本資料への当社グループに関する情報の掲載に当たっては万全を期しておりますが、監査を経ていない財務情報も含まれており、その内容の正確性、完全性、公正性及び確実性を保証するものではありません。

従いまして、本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではありません。

なお、本資料の著作権やその他本資料にかかる一切の権利は日本航空株式会社に属します。